

# 新建・寺子屋 (モダニズムの研究) 259 報告

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；

2019.3.13

藤森著『日本の近代建築(上、下)』分析を終えて

話：三沢浩

A. とりあえずの企画「三沢研の仕事をスライドで」第1回

■ 寺子屋 259 は5人の参加で、講師の三沢氏が手掛けてこられた建築のいくつかをスライドで見せていただきました。

■ この後数回にわたって三沢氏の仕事を見ながら、藤森著書が語ってきた戦前までの近代建築論が戦後にどのような方向性を見出したのか、近代建築と現代建築をつなぐ20世紀の課題は何だったのか、などについて考えていきたいと思います。

■ スライドを見ていると、戦後の新しい建築の「新しさ」は人間の意識や行動を軸にした「自由」、ヒューマニズムに裏付けられた自由ではないか、と思いました。

山や湖、風景といった外の世界を切り取って建築空間に取り込む環境への受動的かつ能動的な視線、縦方向、横方向に自由に伸びる室空間と移動空間、それがもたらす上昇する視線と広がりのある自由な移行など、小さな住宅や山荘の中とは思えない多様な展開は、とても動的で。

■ 環境性能や高齢者対策、法的コンプライアンスといった現在の課題がややもすると静的な空間、静的な論拠に閉じこもりとする時代的な性向と比較して、近代建築から現代建築への純粋な展開に「自由」の獲得を感じたスライドでした。



新建・寺子屋(モダニズムの研究)259

2019年3月13日(水) 話：三沢浩

藤森著『日本の近代建築(上、下)』分析を終えて

A.企画「三沢研の仕事をスライドで」第1回

1. 前回のスライド(#18)への補足と反省('18. 12. 19)

1) 丹下のスライドが少なかったことへのおわび

2) 「菊竹邸(スカイハウス)」も少なかった

3) 最終回のまとめが不足していた

2. 今回スライドはとりあえず1955年(大学卒業)(A.R.事務所)以降の仕事

1) A.R.事務所は1955～1963の8年間。米から帰国後に少々(「自伝」編集)

2) その間にアルバイトの仕事(住宅)があった

3) 1966年以降は独立、「三沢研」の仕事になった

3. できれば「仕事」を年代順に数回スライドで

1) アルバイトの仕事、独立した頃の住宅と別荘

2) 「A.R.事務所」で担当した仕事

3) 長野市の公共事業(建築と彫刻展)も

4) 東京の西と東京の東地区での仕事

4. この先の「寺子屋(モダニズムの研究)」を相談したい

5. 次回も都合により、第2水曜日4月10日(水)に

6. 今回のスライド

① 住宅 '57 細川邸、'58 郷間邸、'73 加々美邸、'77 同増築

② 山荘 FSK82(中川邸)、FSK56(武田邸)、FSK220(別府邸)

<山中湖> FSK260(モデルハウス)、FSK72(中村邸)/FSK=富士山麓

<芙蓉台> FSK-SAK(崎山邸)、FSK-FUT(藤田邸)、FSK-YAT(山本邸)

③ SSL シャローム ロッジ

7. 今後の予定(各第2水曜日)

4月 レーモンドのもとで(8年+α) #260

5月 長野の仕事(+彫刻展) #261

6月 神奈川の仕事(+牛久、横河) #262

7月 横浜の仕事(YES=横浜博覧会'89) #263

8月 休み

次回 <寺子屋 260> ■近代建築を多角的に検討■モダニズム建築に関する著作再読

近代建築から現代建築へ—三沢浩の建築をスライドで見ながら—その2

話：三沢浩

2019年4月10日 (今後は定例を第3水曜日ではなく、第2水曜日にします)

PM 6:00～ (今後は開催時間が少し早めになります)

場所：新宿区水道町2-8 長島ビル2階(江戸川橋駅神楽坂駅徒歩5分)

会費：400円 問合：大崎元 (有)建築工房匠屋 VED03705@nifty.com